

No. 7月-11

復 命 書

18年7月10日

静政会 代表

伊東 稔浩 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

18年 7月 8日(土)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都千代田区

女性のための政治スクール参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「自治体からの日本再生」 中田 宏氏(横浜市長)

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

自治体からの日本再生 中田宏 横浜市長

テレビで見るより背が高くスマートな感じ。2時間思いのたけを伺いました。横浜市の、まさに行財政改革。その為の徹底した情報公開。検証するにも材料が無ければできない。まず、5年前はじめに手がけたのが、現状の洗い出し。ところが、現場は数字を上げたがらない。無駄を省くための常套手段なのに。。徹底した意思表示と頑固なまでの推進力。迫力がある。市役所の機構改革。総務課、企画課、財務課これらを称して、総企財と言うそうだが、これが、機構の要といわれ、エリート畑。市長は、これから手をつけた。財務局をなくして、都市経営局・行政運営調整局と改めた。下水道局も環境創造局とした。呼称を変えただけではなく、そこに、魂・市長の思いが込められているのだ。成長と拡大の時代は終わった。これまでのOKを見直す時代がきた。仕事のやり方も変えなければならない。さまざまな英断の話が続く。中でも、政策決定プロセスの情報公開はすばらしい！その方針はどこで決まっていたのか？いつ？どこで？誰が決めたのか？

をはっきりと市民に公開する。予算は単年度のみだけれど、これから先の、5年間の中期ビジョンとどうリンクするのかなど。情報はプラスもマイナスも公開する。見直しができるために情報がある。都市経営戦略会議・都市経営執行会議すべて議事録はオープンだという。『将来に責任を持つ政治』と言い切る。遡って、時の市長の判断が間違ってた。誰が悪い。などといっても始まらない。人間社会だから、政策の誤りもあるかもしれない。だからこそ、これから先の責任体制が大事なのだ。現在市長は、14件の被告だそうだ。

政治が信用され、市民から寛容に思われる社会にすべきだ。情報公開は暴露ではない。市民に対して正直な行動、請求されて出すのではない積極的に出す、しかも市民にわかりやすく。。。まさに、静岡でもこれが望まれているのだと実感。何事も議論が足りない。文化論、個人の見識など結論の出るものではないかもしれないけど、さまざまな角度で話し合うべきだ。これは、議会に一番足りないことだと常づね思っていたので、まったく！と同感。

政権交代については、日本人は臆病？だという。できるか

どうか不安なのか、現状維持でいる。これは、世界的にも珍しいことだ。消極的だと。。。ある意味、私は、横浜市における政権交代だ！と断言した。とても印象的なことばだ。

この3年間で、退職者の不補充で、15パーセントの職員減になったという。34000人から、28000人の一般行政職員の数に。教職員を入れれば、50000人の職員というマンモスぶり。同じ政令市と言っても比較にならない規模だけれども、器ではない中味では、参考にすべきことが山済みの横浜市政。エネルギーをもらえた講義だった。